

被災後13年の飯舘村の被害実態、暮らし、村人の健康

原発事故災害から13年経過したが、未曾有の激甚災害は継続中ともいえる厳しい状況、先の見えない状況であることに変わりません。その中においても、飯舘村民は希望を持ち、飯舘村内外で暮らししています。どこの場所でどう生きるか、家族や仲間と、仕事をどうするかを問いつづけています。

農山村地域での長期的な放射能汚染の実態を国は無視しています。そのような中での人間の健康、土・水・大気・植物の健康が心配です。その科学的解明と予測、その研究成果を被災者とともに学び、将来に向けた対策、飯舘村人の生活、飯舘村の大地の将来について考えていきたいと思います。

プログラム

挨拶 糸長浩司 (IISORA)

総合司会 佐久間淳子 (IISORA)

1部 村人の部 12時40分～14時00分

菅野 哲 (村人) 初期被ばくとふるさと喪失の裁判

伊藤延由 (村人) 里山の幸(山菜・キノコ)の放射能汚染推移

佐藤八郎 (村会議員) 飯舘村の13年と今後

渡辺富士男 (村人) 飯舘行政区の今と悩み

資料提供 飯舘村 「飯舘村の現状と復興施策について」

休憩 14時00分～14時10分

2部 専門家の部 14時10分～16時00分

今中哲二 (IISORA) 飯舘村の放射能汚染のこれまでとこれから

阪内 香 (元 琉球大学) ヤマトシジミにおける福島原発事故後の野外採集調査
：形態異常と個体数の推移

糸長浩司 (IISORA) 里山生活の課題(住宅、作物、蜂蜜)と健康、バイオマス発電と大規模風車

振津かつみ (IISORA) 原発事故被害から健康と暮らしを守る

3部 総合討議 16時05分～17時00分)

司会 糸長浩司

登壇者 発表者全員

会場との討論

まとめ 菅井益郎 (IISORA) 17時～17時10分

終了後 飯舘村きこり で懇親会

11月3日 9時～13時 飯舘村の現地見学

出発 ふれ愛館 駐車場 9時

解散 ふれ愛館 駐車場 13時

バス(福島交通) 11月2日(土) 福島駅東口発 9:50 飯舘ふれ愛館前 11:07

飯舘村ふれ愛館前 18:31 福島駅東口 19:56

11月3日(日) 飯舘村ふれ愛館前 13:06 福島駅東口 14:31